

2012年度 J T A蹴武型ランキング・ベスト7 (確定)

第23回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会 蹴武型(男女混合)選抜者及び推薦出場者発表

2012年10月5日
日本テコンドー協会
宗師範 河 明生

2012年度、J T A蹴武型(男女混合)ランキング・ベスト7を定め、
第23回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会・蹴武型の選抜出場及び推薦出場選手を発表する。

ただし、茶帯の選抜者は、全日本大会前に昇段していなければならない。

なお、推薦出場選手の選考については下段に記す。

言 己

選手名	段位	所属	年齢	身長/体重	出身地	得意型	選抜基準
チャンピオン 野村修一	二段	岡山備前 TC	32	163/58	岡山備前	忠武	全日本大会優勝3連覇

1、蹴武型ベスト7 (J T A蹴武型ランカー。全日本大会蹴武型出場権獲得者)

第1位	植田博和	二段	東京江東 TC	29	174/63	東京中央	忠武	全日本大会2位 関西大会優勝・関東大会優勝、東京大会優勝
-----	------	----	---------	----	--------	------	----	---------------------------------

第2位	高橋佑輔	二段	高知 TC	31	177/70	高知須崎	忠武	四国大会優勝 関西大会2位・全日本大会4位
-----	------	----	-------	----	--------	------	----	--------------------------

第3位	西谷信一郎	三段	東京大森 TC	38	175/60	北海道小樽	柳韓	神奈川大会優勝 関西大会3位・関東大会3位
-----	-------	----	---------	----	--------	-------	----	--------------------------

第4位 稲垣 健 初段 神戸六甲 TC 45 173/64 大阪市 柳韓 中国大会優勝
関西大会3位

第5位 廣川禎教 二段 長崎佐世保 TC 32 174/65 長崎佐々 中部大会優勝

第6位 高崎健太 二段 東京江東 TC 29 165/72 東京品川 全日本大会型3位

第7位 根塚友香 初段 横浜市大体育会 22 横浜 学生大会優勝
関西大会ベスト8

2、蹴武型 アンダー7 その1 (予選会優勝に基づく全日本大会出場権獲得者)

第8位 近藤 歩 初段 横浜市大体育会 20 長崎佐世保 九州大会優勝

3、アンダー7 その2 (予選会入賞者中、地方クラブ・パイオニア推薦にもとづく全日本FT大会推薦出場確定者)

第9位 河野昌俊 二段 愛媛松山 TC 31 175/66 愛媛松山 JTA愛媛パイオニア 中国大会2位

4、アンダー7 その3 (正当な事由による出場辞退者)

第10位 廣川 望 初段 長崎佐々 TC 30 168/59 長崎松浦 辞退理由・出産 佐賀福岡大会優勝

5、アンダー7 その4 (最終予選会参加者中、JTA倶楽部創設の功労に基づく全日本大会推薦出場確定者)

第11位 大佐古 勝 二段 佐賀鳥栖 TD 40 福岡大牟田 JTA佐賀鳥栖TD創設 関西大会ベスト8

第12位 藤原慎介 初段 大阪弁天町 TD JTA大阪弁天町TD創設 中部大会4位

6、蹴武型 アンダー7 その5

(最終予選会参加者中、JTAクラブ・体育会運営功労およびJTA倶楽部活性化政策に基づく全日本大会推薦出場確定者)

- 第13位 荻山 寛 初段保 東京江東TC 東京大会2位
- 第14位 宮内佐智子 初段 東京港TC 33 161/46 横浜 柳韓 神奈川大会2位・東京大会3位
*女子選手枠
- 第15位 河合泰典 初段 岡山備前TC 愛知 関西大会ベスト8
- 第16位 守田典男 初段 福岡筑紫野TC 山口 福岡イオン筑紫野TC運営
九州大会4位
- 第17位 藤本海史 初段 高知工科大学体育会 高知工科大体育会活性化
- 第18位 高崎航平 初段 高知工科大学体育会 香川 高知工科大体育会活性化
- 第19位 渡邊健人 1級 名古屋天白TC 愛知県連幹事

7、蹴武型 アンダー7 その6 (その他予選会入賞者)

- 第20位 倉田 剛 初段 東京港TC 33 186/93 北海道函館 神奈川大会3位・関西大会ベスト8
*全日本大会は3種目出場不可のためベスト8入賞ながら落選
- 第21位 古屋 哲 初段 高知TC 47 165/72 高知四万十 柳韓 四国大会2位・中国大会3位

第22位	市坪 愛	1級	横浜市大体育会	20		鳥取		中部大会2位
第23位	富永秀海	1級	横浜市大体育会	22		基礎理論講義未受講により昇段不可能		学生大会2位
第24位	金山咲恵	初段	横浜市大体育会	21	155/48		京都	関東大会2位
第25位	趙 智愛	初段	横浜鶴見TC				横浜	九州大会2位
第26位	加藤尚子	初段	横浜市大体育会	21				学生大会3位
第27位	森山賢治郎	二段	岡山TC	35	167/64	石川金沢	義家	四国大会3位
第28位	梅北徳彦	初段	鹿児島国分TD	32	171/75		国分	九州大会3位
第29位	井上拓磨	初段	横浜青葉TC					神奈川大会4位

蹴武型推薦出場選手の選考

過去、全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会に出場した選手の大部分は、

「全日本大会に出場する！」

という強い意志に基づき、所属クラブや体育会等での地道な練習の結果、出場を果している。

これは我が日本テコンドー協会が主催する全日本FT大会が、

選抜選手に対し絶対的技術を要求しているものではなく、

一努力が認められない社会・国家に変容しつつある現代日本の時勢
に抗うかのごとく

一努力が認められる全日本大会

でなければならないと考えているからである。

主宰者・河は、たとえ我が全日本FT大会に出場した選手が1回戦で敗れたとしても、

後楽園ホールに応援に駆けつけてくれた家族や友人等と、

(最近、希薄化している) 家族愛や友情等を目で見える形で確認できる場を提供したいと考えている。

実際、全日本大会終了後の出場選手と家族・友人等との歓談で主宰者の希望通りとなっている。

しかし、当該努力は、最近、激増している若い躁鬱患者の言う

「自分はこんなに努力しているのに周囲が認めてくれない」

というものではない。

国家社会の進歩と発展は、「正当な競争社会」(不正当の典型例が世襲議員・世襲地主&資産家)においてしか成しえない。

「正当な競争社会」において努力を評価するのは、自分と親以外の

一第三者が認められる努力でなければならないのだ。

では、全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会に選抜されるための努力とは何ぞや？

最近、若いも若きも流行の「言い訳け」とは一線を画した

他者の目に見える実証的な努力

であり、

それは、第一に、所属倶楽部・体育会における献身的な貢献・功労である。

我がJTAは、柔道や剣道のように国家社会から手厚い保護（たとえば、全国の武道館や大学には剣道場と柔道場の設置が義務化されている。これは練習場が税金でまかなわれていることを意味する。試合や審査等でも優先的に借りる特権が付与されている）を与えられているわけではない。歴史もなく、資金的援助も皆無である。

ゆえにJTAは、指導者・主将等の所属倶楽部・体育会への愛や使命観、あるいは

「JTA愛（I）」に基づく奉仕の精神無くして存立し、発展することはできないのだ。

とすれば、当該選手の所属倶楽部・体育会における献身的な貢献・功労を認めなければならないし、

その努力を看過するならば、組織の長としての信が立たないのである。

第二に、全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会予選会（本年度9大会）への出場である。

上記の推薦出場者の中には、9試合中6試合出場している選手がおり、

これを努力とみなさなければ他のいかなる行為が努力なのか、と反論せねばなるまい。

とりわけ、最終予選会の第10回関西テコンドー選手権大会は、気象庁等から「強い台風」と評された台風17号の渦中で開催された。

主催者はかなりの数の棄権が生じるであろうと予想していたが、個人戦での棄権は僅か3名（2名は自衛官）であった。

台風の進路となった関東地方への復路は、かなりの困難が伴ったであろうが、これも覚悟の上での選択だったとみなせる。

しかも西日本の大学生とは異なり、それ以外の参加者の旅費は全額自己負担である。

これを努力とみなさなければ、やはり組織の長としての信が立たないのである。

他方、我がJTAの課題の一つは、加盟クラブ・体育会の活性化である。

いかなる組織も、その命運は、核心勢力の意欲と質にかかっている。

我がJTAにおける核心勢力は、

全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会への協力を惜しまないクラブ長や都道府県理事・幹事等の門人であり、

選抜・推薦出場を目指している門人・会員であり、

同門の選抜選手を応援するために全国から後楽園ホールに集う門人・会員である。

私は思う。

仮に、向上心がない者が主流の武道道場が存在するとすれば、当該道場は、いったいどういう社会的存続意味があるのか？と。

JTAの道場は、程度の差こそあれ、持続的向上心を有する門人・会員が主流でなければならない、と考えている。

世の人々は仕事が大切だと信じている。まったくそのとおりで反論する余地はない。

さりながら、仕事が寿命を縮めているという事実も見過ごしてはならない。

生活するための仕事で、悩み苦しんで精神病を患い、やがて自殺という選択肢を選ぶ人々が日本には毎年3万人を超えると

いう事実を見過ごしてはならないのだ。しかも過労死が多い。

他方、仕事とは異なり、まったくお金にならないJ T Aテコンドーという武道を真剣な眼差しで一生懸命修練して汗を流し、礼儀礼節を尊ぶ、さわやかな素心の人々で構成されている道場で学べるのであれば、

当該会員には、現代では死語となりつつある「人間を信じ、義を尊ぶ心」＝信義という徳目が涵養されるのだ。

「ああ、J T Aの道場の人間関係は、利害関係が蔓延している職場と違って、いいなあ」

と癒されることも多いはずだ。そう観じれば現代のキーワードといえる孤独とは無縁となる。

そのためにもJ T A倶楽部内における向上心は不可欠なのだ。

たとえ自分自身が出場しなくとも、

普段、道場で接している先生、先輩、同輩、後輩の応援にかけつけることも、向上心の発露といえる。

自分の代わりに道場を代表して戦い勝ってほしい、という集团的向上心があるからである。

J T Aのトップとして、上記をふまえ、J T A加盟クラブ・体育会の活性化を促進しなければならないと考える。

本年度、予選会では、同一選手が優勝しており、全日本大会選拔出場のための優勝を逃したケースが多かった。

かかる状況下においては、機会を与えるべきだとの結論に達した。

蹴武の型は、我がJ T Aが誇る武道史上、唯一の体系化された蹴りの型であり、蹴武の特長でもある。

年々、蹴武の型のレベルは向上し、その選手層も厚くなっている。

その証左が最終予選会・関西大会一部蹴武型のエントリー30名であり、一人の棄権者も出さないと言う熱意であった。

この中から、将来、不動の王者・野村修一や植田博和等の有力選手を超える選手が輩出されることを信じて止まない。

以上

備考

1, ランキング選定基準

前年度全日本F T大会における順位を前提としながら、

- ①本年度予選会における直接対決の勝敗
 - ②本年度予選会における優勝回数
 - ③予選会参加時の状況
- 等を基準とした。

2, 第23回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会の選抜選手選考・一部女子組手無差別級の大会名

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| ①2011年11月 | 第22回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 |
| ②2011年12月 | 第14回関東テコンドー選手権大会 |
| ③2012年 1月 | 第1回佐賀・福岡テコンドー選手権大会 |
| ④2012年 2月 | 第5回四国テコンドー選手権大会 兼 第7回高知県テコンドー選手権大会 |
| ⑤2012年 3月 | 第23回神奈川県テコンドー選手権大会 |

- ⑥ 2012年 3月 第5回中国テコンドー選手権大会 兼 第9回岡山県テコンドー選手権大会
- ⑦ 2012年 5月 第4回中部テコンドー選手権大会 兼 第9回愛知県テコンドー選手権大会
- ⑧ 2012年 6月 第3回九州テコンドー選手権大会 兼 第1回長崎テコンドー選手権大会
- ⑨ 2012年 7月 第15回東京都テコンドー選手権大会
- ⑩ 2012年 8月 第24回全日本学生テコンドー選手権大会
- ⑪ 2012年 9月 第10回関西テコンドー選手権大会 兼 第3回JTA団体対抗戦